

第二中隊	第一中隊	本部	隊區		別分	彈藥	消費
			別	分			
3602	1095	55	彈銃小				
			彈機重				
61	60		彈筒彈擲				
770	90		彈工千				
60	35		彈榴手				
			彈砲兵步				
			彈銃拳				
						毀	兵
						損	器

昭和十八年秋奉莫西作戰  
兵器彈藥損耗表

昭和十八年十一月十日調製



昭和十九年一月

一月一日 大隊ハ昭和十九年ノ新春ヲ山西省榆次縣榆次城外ニ於テ迎  
ヘ七時榆次神社ニ参拜八時源過鎮街道台場ニ於テ遙  
拜式ヲ舉行ス

一月五日 昭和十八年度第二次補充員一五九名ノ集合教育終了ニ  
伴ヒ十四時ヨリ宮脇大尉ノ査閲ヲ實施セリ

一月六日 昭和十八年度第二次補充兵教育終了ニ伴ヒ各中隊ニ配  
賦ス

一月八日 第一中隊長 陸軍大尉 善方忠一  
歩兵第百十九聯隊附

陸軍中尉 川崎忠男  
第一中隊長ニ夫々命課發令セラレ

一月十三日 陸軍軍曹 竹中甚三郎  
同 前田鷹雄

現役下士官ニ採用ス

一月十五日 陸軍少尉 大島 弘

北支那歩兵訓練隊ニ勤務中ノ處歸隊セルヲ以テ新ニ  
 乾大尉ト通信隊長ヲ交代セシム

一月二十三日 部隊長賀谷中佐本日十八時四十五分榆次ニ到着セラル

一月二十四日 大隊八榆次太谷和順縣境附近ニ踏居シアル太谷榆次偽  
 縣政府及新編第二十旅ヲ續イテ壽陽附近ヲ遊動スル河  
 南区隊ヲ撃滅ノ爲十四時ヨリ行動ヲ開始ス 部隊長ハ旅  
 装ノ解ク暇モナク大隊ヲ指軍スル爲十五時自動貨車ニ  
 依リ東陽ニ向ヒ前進セラル

一月二十六日 内山大尉 乾 大尉 正七位  
 川崎中尉 小林中尉 飯田中尉 松山中尉 織田中尉  
 清水中尉 目澤中尉 從七位

一月二十九日 陸軍少尉 大島 弘以下六名獨立歩兵第二二大隊轉属ノタメ出發ス

獨立歩兵第十二大隊將校高等文官職員表 昭和一九一三調

本	部	第	中	隊
大隊長(步)	中佐 賀谷 與吉 33	1.6 附	(步) 少尉 大島 弘	(幹)
副官(步)	大尉 乾 邦政 33	0.1 同	(步) 少尉 井上 良一	(幹)
3.0 同	(步) 少尉 一	3.1 中隊長(步)	中尉 吉田 一	(幹)
第 三	中 隊	2.1 附	(步) 中尉 松山 良雄	(幹)
中隊長(步)	中尉 長 峯 正 榮 幹	1.8 同	(步) 少尉 吉田 勲	(幹)
3.4 附	(步) 中尉 不破 喜一郎	1.8 同	(步) 少尉 高橋 種次郎	(幹)
2.2 同	(步) 少尉 太田 俊郎	過 兵科尉官	一	
2.0 同	(步) 少尉 飯田 文吾	同 醫 尉官	一	





昭和十九年二月

二月一日

討伐隊ハ多大ノ戦果ヲ擧ゲ全員無事歸還セリ

二月九日

昭和十九年度初年兵二四八名並ニ受領員海路無事ニ到着セリ

二月十日

現地召集兵徴集ノ為身体検査ヲ實施スルト共ニ陸軍曹長木村市四郎以下五十四名應召入隊セリ

陸軍少尉

梁瀬

淑

第二中隊

同

山崎

勉

當大隊ニ召集ニナリタルヲ以テ夫々中隊附ヲ命ズ

第四中隊長ニ

内山 幸雄

歩兵砲中隊長ニ

歩兵砲中隊長ニ

吉村

馨

第四中隊長ニ

夫々 兎命ス

二月十五日

二月十七日

大隊ハ石師作命甲第二四號ニ基キ櫻部隊編成要員トシテ乾大尉以下二四八名ヲ轉屬セシメ櫻部隊長ノ指揮ニ入ラシム

二月二十四日

大隊ハ重火器中隊ノ裝備ヲ強化スル爲新ニ機関銃中隊ニ二十二名、歩兵砲中隊ニ二十八名編入セシメ重火器中隊ノ強化

二月二十五日

大隊長ハ長辛店ニ於テ行ハル大隊長教育参加ノ爲出發セララル

現地召集者 石橋中尉以下六名入隊セリ

陸軍中尉 石橋 康作

機関銃中隊附

陸軍少尉 尾城 久吉

第五中隊附

陸軍兵長 立花未男以下二十九名

二月二十六日

山砲隊要員トシテ轉屬ス  
大隊ハ師團命令ニ依リ逐次警備ヲ交代シ爾後ノ態勢ヲ確センガ爲獨立歩兵ニ二九大隊ニ現警備ヲ移壞ニ著手ス

昭和十九年三月

三月一日

固部隊ニ引継業務ヲ實施ス

三月二日

第一中隊長川崎中尉ハ石河村警備隊ニ到リ固部隊ト共ニ警備行軍ヲ實施ス

三月五日

左ノ通發令セララル

陸軍ヲ醫大尉 曾根田 晃

善通寺陸軍病院附

三月八日

部隊長ハ長辛店ニ於テ實施セララル大隊長集合教育ニ参加中ノ處本日歸隊セリ

三月九日

一部隊長ハ各隊將校ヲ本部ニ集合セシメ將校集會所



ニ於テ普及教育ヲ實施セラル  
一幹部候補生加藤行雄以下六名陽泉旅團教育隊ニ  
派遣セリ

三月十二日 一東陽(第一中隊) 大谷(第四中隊) 芦家莊(第三  
中隊) 壽陽(第五中隊) ハ本日夫々固部隊ニ担任地区  
ノ警備ヲ移壞シ榆次ニ兵力ヲ集結、訓練ヲ實施ス  
一装甲列車、軌道車、固部隊ニ移壞ヲ完了ス  
一昭和十八年衛生兵小田稔以下一八名潞安陸軍病院  
院ニ分遣ス

一曾根田大尉ハ赴任ノ爲出發ス

三月十五日 一大隊ハ次期作戰準備ノ爲野外訓練實施ノ爲轟店  
村ニ到リ訓練ヲ實施中十九日師團長西旅團長、各  
團隊視察セラル  
十九日榆次ニ歸還ス

三月二十日 一部隊長ハ敵陣地偵察ノ爲二十二時四十五分發列車ニ  
依リ出發セラル

三月二十一日 一左ノ通信官セルヲ以テ各々頭書ノ中隊附ヲ命ズ

第三中隊 陸軍曹長 林 松 壽

步兵砲中隊 同 田口省三

第二中隊 同 伊東正吉

任陸軍准尉

補獨立步兵第十二大隊附 (三月一日附)

三月二十四日 一部隊長ハ敵陣地偵察ノ爲出張中ノ處歸還ス

三月二十六日 一部隊長ハ第一軍隷下指揮下部隊ノ小銃、輕機関銃  
教育ヲ二十七日二十八日三日間ニ亘リ實施ス

三月二十七日 一増加配當馬四七頭交付セラル

三月二十九日 一第七回創立紀念日式典ヲ舉行ス

昭和十九年四月



四月一日 一部隊長ハ本日二十三時出發團隊長會同出席ノ為北  
京ニ出張セラル

四月三日 一、大隊ハ「オ」號演習参加ノ為賀谷地区警備ヲ固部隊  
ニ引継キ第一梯團(輸送指揮官長峯中尉、三中隊、四中隊  
ノ主力各隊馬匹)ハ口時三十分、第二梯團(輸送指揮  
官官脇大尉、本部、五中、步砲、戰鬥救護班、作業小隊)  
ハ七時二十九分、第三梯團(輸送指揮官塩見中尉、一  
中、二中、MG、通信、行李關係)ハ十四時夫々榆次出發集  
結地ニ向ヒ前進ス

四月六日 一、第一、第二梯團ハ八時第三梯團ハ十五時陽武站ニ到  
着爾後王村ニ向ヒ前進ス

四月八日 一、部隊長ハ團隊長會同ノ為北京出張中ノ處十八時  
到着セラル

四月九日 一、大隊ハ九日ヨリ十三日ニ亘ル間王村附近ニ於テ訓練ヲ

實施スルト共ニ中隊長ヲ霸王城ニ派遣シ敵陣地ノ狀況  
ヲ觀察セシムル等作戰準備ニ萬全ヲ期ス  
一、十日梅本見習士官、輜重兵一五二名到着シ大隊ノ戦力  
ヲ増強ス

四月十四日 一、大隊ハ敵第一戦区ニ對スル攻撃準備ノ為十三時三十分  
王村出發大黄河ヲ渡河シ河南省霸王城五十三陣  
地北側峪地附近ニ兵力ヲ集結スルト共ニ攻撃ヲ準備ス  
四月二十日 一、二十四時ヲ期シ霸王城ノ敵第一線ヲ「ラ」「サケ」ニ對シ  
霸王城攻撃  
鄭州入城  
攻撃開始、上溝王、榮澤ノ堅陣ヲ突破敵ヲ追撃、  
十五時三十分鄭州ニ入城ス、  
本戦斗ニ於テ

須磨少尉、野村少尉以下七名戦死ス

四月二十一日 一、四月二十一日鄭州出發荊砦ノ周渡口ニ前進、四月二十  
四月三十日 六日鳳凰砦ニ到着スルト共ニ一部ヲ以テ孟縣方向

本陣はこれ  
初陣はこれ  
。黄河

一日 一部隊長ハ本日二十三時出發團隊長會同出席ノ為北  
京ニ出張セラル

三日 大隊ハ「オ」號演習参加ノ為賀谷地区警備ヲ固部隊  
ニ引継キ第一梯團(輸送指揮官長峯中尉、三中隊、四中隊  
ノ主力各隊馬匹)ハ口時三十分、第二梯團(輸送指揮  
官官脇大尉、本部、五中、歩砲、戰鬥救護班、作業小隊)  
ハ七時二十九分、第三梯團(輸送指揮官塩見中尉、一  
中、二中、MG、通信、行李關係)ハ十四時夫々、榆次出發集  
結地ニ向ヒ前進ス

六日 第一、第二梯團ハ八時第三梯團ハ十五時陽武站ニ到  
着爾後王村ニ向ヒ前進ス

一日 一部隊長ハ團隊長會同ノ為北京出張中ノ處十八時  
到着セラル

日 大隊ハ九日ヨリ十三日ニ亘ル間王村附近ニ於テ訓練ヲ

實施スルト共ニ中隊長ヲ霸王城ニ派遣シ敵陣地ノ狀況  
ヲ觀察セシムル等作戰準備ニ萬全ヲ期ス

十日 梅本見習士官、輜重兵一五二名到着シ大隊ノ戦力  
ヲ増強ス

十四日 大隊ハ敵第一戦区ニ對スル攻撃準備ノ為十三時三十分  
王村出發大黄河ヲ渡河シ河南省霸王城五十三陣  
地北側峪地附近ニ兵力ヲ集結スルト共ニ攻撃ヲ準備ス  
二十日 二十四時ヲ期シ霸王城ノ敵第一線ヲ「タラ」「サケ」ニ對シ  
攻撃開始上溝王、榮澤ノ堅陣ヲ突破敵ヲ追撃、  
十五時三十分鄭州ニ入城ス  
本戦斗ニ於テ

須磨少尉、野村少尉以下七名戦死ス  
二十日 四月二十一日鄭州出發荊砦一周渡口ニ前進、四月二十  
六日鳳凰砦ニ到着スルト共ニ一部ヲ以テ孟縣方向

本隊は既に...  
四月二十一日...  
4.14

4.14.8

ニ對スル敵情ヲ偵察スルト共ニ鳳凰砦附近ニ在リ  
テ孟縣攻撃ノ準備ヲナス

賞

詞

第一中隊長 川崎中尉  
ノ指揮スル 歩兵一小隊  
工兵一分隊

陣地ヲ突破シ枯川ノ障礙ヲ越エ上溝五ノ堅陣ヲ奪取シ追勢澤縣  
城ヲ攻撃シテ敵ノ重要據点ヲ破催シ遂ニ長駟鄭州ノ戰略據点  
ヲ奪取シ以テ戰勝ノ端ヲ開クヲ得シメタリ  
其ノ武功拔群ナリト認ム  
依ッテ賞詞ヲ與フ

昭和十九年四月二十日

獨立歩兵第十二大隊長陸軍中佐 賀谷與吉